

令和7年度桐生市景観講演会

「デザイン目線で見える繊維の街桐生の景観 真・善・美」

桐生市では、景観行政団体になった平成25年以降、景観形成に関わる様々な取り組みを実施しており、そのひとつとして、多くの方にまちの景観を考えていただく機会となるよう、景観講演会を開催しております。

今回は、ファッションデザイナーでボードゲームカフェ「ふいふい」店主の和崎拓人さんを講師に迎え、令和7年12月5日（金）に保健福祉会館にて講演をいただきました。和崎さんは、都内でフリーのデザイナーとして活動しながら全国の繊維産地を回る中、桐生の繊維技術の多様性に触れたことをきっかけに桐生市に移住。現在は、本町六丁目でアトリエ兼ボードゲームカフェ「ふいふい」を運営しながら、30年・40年後に繋がるような町並みの継承等にも取り組んでいらっしゃいます。

講演会の関連イベントとして、講演会の周知と市の取組内容を紹介するパネル展を市役所1階多目的スペースにて11月19日～12月5日に実施いたしました。

講演会では、はじめに市から景観行政の取組みについての発表を行い、景観条例、屋外広告物条例の経緯を説明するとともに、色彩基準や屋外広告物の改善路線など具体的な制度・取組みの紹介を行いました。

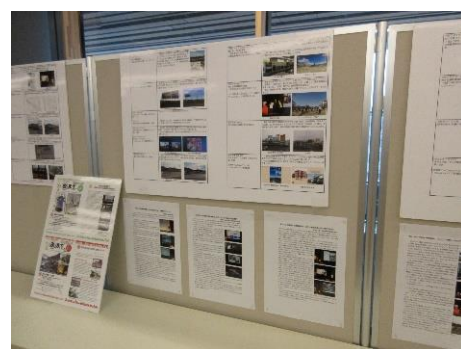
市の発表後は、「デザイン目線で見える繊維の街桐生の景観 真・善・美」とのテーマで、和崎さんにお話しをいただきました。

前半はファッションについて紹介するとともに、桐生の魅力や桐生の繊維技術の多様性について、スライドを交えて紹介いただきました。漠然と理解はしていましたが、移住者から見た桐生の魅力や他に類を見ない繊維の多様性について、新たな発見となるお話を聞くことができました。

後半では、総合計画にある桐生の将来都市像「感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生」の切り口から、どうやら桐生は粋っぽいというお話があり、「粋」は感性とセンスが必要であると話されました。良好な景観とは、住む人にとっての誇りであり、訪れる人にとっての魅力となるような好ましい眺めを指すが、では、桐生の景観はどうやって決めるのか、なぜ景観の美化に取り組むのかをデザイナーの視点で景観への思考が述べられていました。その中で印象的だったのは、「感性のものさし」という言葉で、それは景観のルールとして誰にとっても良いと思える基準であるというものでした。この講演により、まちづくりは全ての人がプレーヤーとなって考えることが重要であり、景観としてどう桐生を考えるか、参加者の皆さんに意識していただけたものと思います。



和崎 拓人さん
(ファッションデザイナー・
ボードゲームカフェ「ふいふい」店主)



パネル展の様子



講演会の様子